

次の文章をよく読んで、7 ページから 10 ページにある問いに答えなさい。

私たちは、自然の恵みを受けながら生活をいとなんできた一方で、地震や火山の噴火、洪水や台風などさまざまな自然災害に苦しめられてもきました。なかでも、地震は地球内部の活動からくる自然現象で、突然おそってくるという恐ろしさがあります。また地震は、発生した時代や、自然と人びとのかかわりによって、異なる被害を引き起こし、そのときどきの社会の課題をあぶりだしてきました。ここでは、過去の地震や最近起こった地震をとりあげながら、私たちの社会と自然との関係について考える手がかりとしてみましょう。

〔1〕

地震は昔から数多くありました。ア『古事記』や『日本書紀』などの書物が作られ、そこには、家屋が倒れ、多くの死傷者があったこと、津波が発生し、朝廷への貢ぎ物をのせた船が流されたことなど、被害の例が記されています。このころには、地震などの災害が起こると、天皇が諸国の国分寺で経を讀ませ、神仏に祈ったことがわかります。

イ平氏がほろびた3か月後には、滋賀から京都にかけて大きな地震が発生しました。京都の寺や貴族の住居に被害がでたこと、有力な寺や貴族が、橋や住居などの造営工事を行い、京都の被災者に食料と働き口をあたえたことなどが、さまざまな読み物に書かれています。さらに、鎌倉時代には、新しい仏教の指導者が、災害の起こる理由を政治の乱れに求め、それをただすことを①の地位についていた北条氏に求めたことがわかります。

戦国時代の終わりに、近畿地方でいくども地震が起こりました。大名の城が土石流におそわれたり、家臣が死んだりしました。また、豊臣秀吉によって築かれたばかりの伏見城が崩れ、ウそのことがのちに歌舞伎の題材にもなっています。

江戸時代になると、地震や火山の噴火ばかりか、それによって発生した津波や山崩

れによる被害のようすもくわしく記録されています。18世紀のはじめに、江戸をおそった②地震では、多くの人が死亡し、江戸の町のいたるところがこわれ、関東一円に被害がでたことがわかっています。この地震からしばらくして、はなやかな町人文化の栄えた③時代は終わりをむかえました。

幕末のころには、江戸で安政大地震が起きました。工おそらく震度6程度の地震であつたと考えられています。この時には火災も発生し、町人の死者は4000人を超えました。江戸で地震が起きた時、幕府はしばしば被災者に対する救済として、緊急の食料援助や避難小屋の設置などを行っていました。

地方でも、地震や噴火などの災害は、たびたび起こりました。18世紀には浅間山が噴火して寒冷化が起こり、各地に深刻な飢饉を引き起こしたといわれています。また④半島では普賢岳が噴火し、これにともなう地震で眉山が海に崩れ落ちて、その波が対岸の肥後の国をおそいました。これは「⑤大変、肥後迷惑」とよばれ、各地に伝えられていきました。

江戸や各地で起こった災害は、かわら版や錦絵、あるいは読み物や口伝えなどによって、人びとに語りつがれていきました。

明治になると、地震などの災害への対応は大きく変わります。災害への取り組みは、政府の課題とされ、災害対策やその救済・復興を、法律によって行うことが求められました。そして、新聞などの発達により、災害は広く国民に知られ、政府の対策は議会で議論され、国民の判断を受けるようになったのです。

こうしたなか、力1923(大正12)年に関東大震災が起こりました。これによる死者・不明者は10万人を超え、全壊家屋11万戸、焼失家屋21万戸を上まわる大惨事となりました。この地震では、家屋の倒壊よりも、火災によってはるかに多くの死者がでました。東京や横浜などの都市に人口が集中するなか、十分な災害対策がなされていないことがはつきりしたのです。また、その被害の大ききから被災者の救済は、とても困難なものとなりました。全国各地から、さらには海外からも救援の手がさしのべられました。

災害弱者の存在が以前から指摘されていきました。クニの地震では、こうした災害弱者以外にも、あなたたな災害弱者ともいふべき人が、神戸には多数居住していたことがわかりました。

ところで、この地震における救済にあたり、国や県は、被災地の市町村で、あつても、細かな資料の提出を求めました。そのため市町村は、仮設住宅に配布する品物について、ふとんは何枚とか、箸は何本とか、調味料はいくつといったことまで、国や県に届けようことを求められました。緊急時であっても、そうしなければ国から予算がもたらえなかつたのです。

さらに、仮設住宅の建設場所や数、入居資格を決定したのは国や県であつて、被災者の生活状況をよく知っている市町村ではありませんでした。国や県は、市町村の要望や被災者の希望を十分に受けることなく、仮設住宅への入居は高齢者を最優先しました。たしかにその必要性は理解できますが、その結果、優先的に入居できた高齢者に深刻な問題が生じたのでした。

以上のように、阪神・淡路大震災では、コ救済や救済に関するさまざまな問題があつりました。

このような地震は、東京では起きないのでしょうか。ある専門家によれば、現在日本列島は再び地震の活動期に入つており、関東でも直下型地震が発生する確率は高いとされています。東京で大地震が起これば、たいへん大きな被害が予想されます。東京都の想定によると、阪神・淡路大震災とおなじ規模の地震が、23区内を震源として冬の午後6時に発生した場合、東京都全体で7159人が死亡し、15万8032人が負傷し、建物は14万2000棟が全半壊し、37万8000棟が火災により焼失するとされています。

東京が被災すれば、日本の政治や経済全体に大きな影響をあたえるでしょう。交通や通信網、上下水道、ガス、電気、電話などのライフラインがとぎれてしまうと、食料や飲料水などの物資を送ることも大変になります。神戸では、住宅密集地で多くの家屋が焼失し、臨海部の埋め立て地で液状化現象による大きな被害がでました。東京でも同じような被害、あるいはそれ以上の被害がでると考えられます。被災地への

第二次世界大戦中にも、いくどか地震が起きています。日本の敷色が濃厚になるころ、東海地方に地震が発生し、大きな被害がでました。しかし、翌日の新聞では「東海地方で地震があつたが、その被害はわずかである」という、実態とはかけ離れた報道がなされ、救援の手はほとんどさしおかれませんでした。中央政府による情報統制が行われ、そのためまぼろしの地震とさえよばれるようになりました。

## (2)

第二次世界大戦後も、日本列島はいくど地震にみまわれてきましたが、都市直下型の大地震は、ながらく起りませんでした。そんなとき、大都市を地震がおそつたら、どのようなことになるかを私たちに気づかせることになつたのが、国際都市神戸で起きた地震だったのでした。

1995(平成7)年1月17日早朝、淡路島を震源として発生した阪神・淡路大震災では、神戸、芦屋、西宮の各市で震度7を記録し、死者の数は6000人を超え、25万棟にのぼる家屋が全半壊し、多数の鉄筋コンクリートのビルにも被害がでました。家屋からでた火災によつて、多くの人が犠牲になりました。また、高速道路の倒壊が起り、鉄道の被害も大きく、新幹線の高架部分が落下しました。この地震が早期ではなく、通勤ラッシュの時間帯に起つていたら、さらに大きな被害を引き起こしていたにちがひありません。私たちは、過密化する現代の大都市で大きな地震が発生すると、どのような大惨事が起こるか思い知らされました。

この地震における救援はどのようなものであつたのでしょうか。家屋の下敷きになつた人のうちで、自力で脱出したり家族や隣人・友人に助けられたりした人が実に98%にのぼり、消防など専門の救助隊に助けられた人はわずか2%でした。このことから、地震直後は消防などによる救助は遅れることが多く、自力や被災者同士で助け合うしかないことがわかります。普段からまちづくり活動や地域福祉活動がさかんだった地域ほど、適切な対応がなされたのです。

また、地震などの災害時には、手助けを必要とする高齢者や障害者・病人という

救援や救済、そして復興は、神戸以上に大規模で困難なものとなるでしょう。

地震災害のおそれは都市部ばかりではありません。2005（平成 17）年に起きた新潟中越地震では、地方都市の市街地をふくめ、山間部の村落や棚田も大きな被害を受けました。道路や鉄道が破壊されたため、孤立したり、救援物資が届かない村落がうまれ、また、なかなか連絡の取れない家も多く、被害全体のようすがわかるまで時間がかかりました。ライプラインの復旧にも時間がかかり、不便な生活が続きました。また高速道路や新幹線が一部で不通となり、東京などとの交通がとたえたりもしました。サ地震そのものの被害はなかつたにもかかわらず、交通が復旧しても、損失をだしつづけた産業もありました。また、この地域にある水力発電所が破壊されたため、東京で電力の不足する交通機関が生まれました。地方での災害は、今やその地域だけの問題ではすまなくなっているのです。

日本では高度成長期以降、高速道路、新幹線、高層ビル、原子力発電所などが全国につくられました。そして各地が結びつけられて、私たちの生活は便利で効率的なものになりました。しかし、これらは、ひとたび直下型の地震にみまわれると、大きな被害がでることが予想されるものです。私たちの快適な生活も、ライプラインがひとたび失われると、生活そのものが困難になってしまいます。経済が発展し、科学や技術が進歩し、生活が向上するなかで、日本の国土は大きく変化してきているのです。

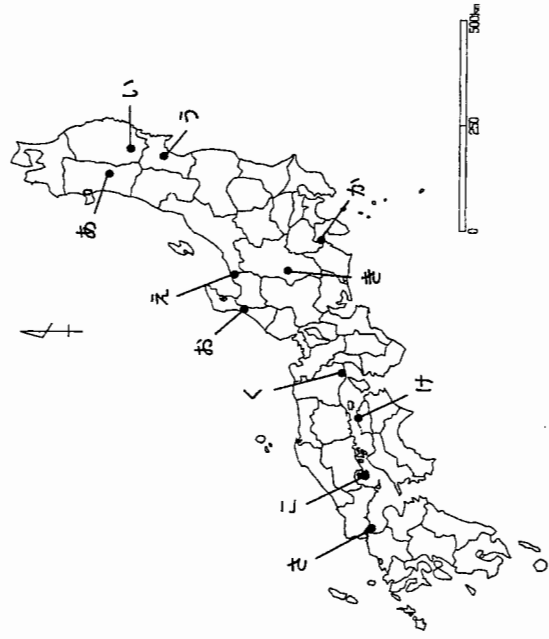
### (3)

科学や技術は、私たちの生活を向上させ、快適なものにしてくれました。しかし、他方で、それによってさまざまな矛盾をかかえるようにもなつたのです。私たちは現在のよような生活や社会を、科学や技術にたよってつくりあげてきました。そして、神戸や新潟の地震では、生活が向上した分だけ、被害が大きくなつたのかもしれない。日本は地震の多い国ですから、経済の発展を求めると同じくらいに、安全性に

対する配慮を必要とするはずで。

いうまでもなく、私たちの生活や社会は、科学や技術の上に成り立っています。しかし、科学や技術は、すべてにわたって万能ではありません。人間の限られた能力で、限りのない自然にइटおわけですから、科学や技術を進歩させて、利用できる自然の範囲を広げれば広げるほど、それまで忘れられていたり、知られていなかった自然の姿があらわれにくるのです。それは、人間の科学や技術の限界があきらかになるということとです。それにもかかわらず、今日まで私たちが、不安をかかえながらも、安全性より経済の発展を優先してきました。科学や技術の進歩を信頼して、自然を支配しようとしてきているのです。しかし、科学や技術を発展させてきた人びとが、自然のすべてをわかっているわけではありません。シ私たちは今や、科学や技術に対する態度をこれまでとは変えていく必要があるのではないだろうか。

- 問1 空らん①～③にあてはまる、もっとも適当な語を書きなさい。
- 問2 下線部アについて、『古事記』についての説明として、もっとも適当なものを下の(あ)～(お)からひとつ選び、記号で答えなさい。
- (あ) 天皇の命令により、中国式の文章である漢文で記された書物。神話をふくめたさまざまなできごとが記されている。
- (い) 3世紀ごろの日本列島のようすが記されている書物。中国に使いが送られたとの記述がある。
- (う) 神話をふくめたさまざまなできごとを聞き取りによって書きとめた書物。推古天皇の時代までが記されている。
- (え) 各地の言い伝えや地名の由来などを記した書物。国ごとにまとめられている。
- (お) 天皇や貴族から防人(ぼうえい)にいたるまでの歌を記した書物。独特の仮名づかいで書かれている。
- 問3 下線部イについて、下の地図をみて、源平の合戦ゆかりの地である、平泉、俱利伽羅峠(くりにがらとうげ)、屋島(やしま)にあたる記号をそれぞれ選びなさい。



- 問4 下線部ウについて、歌舞伎に関する説明として**通当でないもの**を、下の(あ)～(え)からひとつ選び、記号で答えなさい。
- (あ) 出雲国の阿国(あくに)という女性がはじめた踊りが評判となり、江戸時代を通じて演劇として発展していった。
- (い) もとは女性や少年が演じるものもあったが、江戸幕府によって禁止され、おもに成人の男性が演じる芸能になった。
- (う) 江戸には多くの劇場がつくられ、台本の作者として近松門左衛門などが人気を得た。
- (え) 江戸時代、おもに武士に愛好されるとともに、寺院での上演などを通じて農民や町人にも流行した。
- 問5 下線部エについて、震度とは揺れの激しさを数字であらわしたものです。なぜ私たちは、江戸時代に起きた地震が、震度6程度だったと知ることができるのでしょうか。説明しなさい。
- 問6 下線部オについて、安政大地震の直後に、**絵巻**という絵が登場する錦絵が江戸で流行しました。当時は絵が地震を起こすと思われていたのです。10ページの絵巻は、地震後のどのような様子を描いているのでしょうか。説明しなさい。
- 問7 下線部カについて、この時、朝鮮や中国の人びとが多数殺害されました。その理由を40字以上60字以内で書きなさい。ただし、句読点も1字分とします。
- 問8 下線部キについて、なぜ当時の政府は、この地震について情報統制を行ったのでしょうか。考えられる理由を書きなさい。
- 問9 下線部クについて、神戸に多数居住していたあらたな災害弱者というべき人びとは、どのような人びとですか。そして、その人びとは、どのような困難に直面することになったのでしょうか。あわせて答えなさい。
- 問10 下線部ケについて、仮設住宅に優先的に入居できた高齢者には、どのような問題が生じたのでしょうか。答えなさい。

問6の図 絵「持丸たからの出船」



- 問11 下線部□について。文中で述べられているような阪神・淡路大震災における救援や救済についての記述から、どのようにに行政の仕組みや地域社会が変われば、より良い災害対策を行うことができると思いますか。40字以上60字以内で書きなさい。ただし、句読点も1字分とします。
- 問12 下線部サについて。これはどのどのような産業ですか。そして、なぜ損失をだしたのでしょうか。あわせて答えなさい。
- 問13 下線部シについて。(3)の文章で述べられているような、思いもよらなかつた自然が姿をあらわし、人間の科学や技術の限界があきらかになるとは、どのようなことでしょうか、具体例をあげて説明しなさい。さらに、君が科学者や技術者のような専門家であつたとすれば、どのような態度で科学や技術に接し、社会に貢献していかうと考えますか、上であげた例を用いて述べなさい。なお、字数は200字以上240字以内とし、句読点も1字分とします。

<問題文はここで終わりです>

<問題はここで終わりです>